

地球物理学教室の近況

中西一郎教授（教室主任）

昨年、2010年には地球物理学教室、地質学鉱物学教室、附属地磁気世界資料解析センター、附属地球熱学研究施設が1号館に結集しました。地球惑星科学専攻としては、私（地物教室主任）が専攻長で、小畑正明教授（地鉱教室主任）が副専攻長であります。また地球惑星科学専攻運営委員会が毎月開催され、2教室・地磁気・熱学に共通する教育・研究に関する情報交換・議論が行われています。図書室は4月1日から専攻共通の図書室になり、司書に銭谷多美さん（旧地物教室図書室司書）が就任され、2教室、地磁気、熱学の共同運用となりました。蔵書は地物のときの約3倍（地物1、地鉱2の割合）です。外国の古い論文、例えば最初に理論地震波形を計算したLambの原論文（1904）を読むことができます。10月1日には淡路敏之教授が理事に就任され、理学研究科教授兼任となりました。事務職員では4月1日に西浦由利子さんが着任されました。産休に入られた事務主任の延原由紀さんの代わり、10月には三宅里枝さんが、また、1月からは佐々木和代さんが勤められています。熱学では大沢信二教授が昇任、横尾亮彦助教が就任されました。協力講座構成員として防災研究所の山崎俊一助教（宮崎）と高田陽一郎助教（上宝）が兼任になられ、地球惑星科学専攻の大学院教育への寄与が期待されます。

地球惑星科学専攻が主催する行事としては、5月21日（金）に恒例の観葉会が開催されました。6月11日（金）には、「2010年ウェゲナー祭」が、専攻以外の方々に地球惑星科学専攻を知ってもらうことを目的として開かれました。ウェゲナーは気象学者であり、大陸移動説の提唱者としても有名です。

大学院関係では、4月に37名が地球物理学分野修士課程に入学し、7名が博士後期課程に進学・編入学しました。2011年1月には三井雄太君（地震分科、指導教員平原教授）が、特例により3年未満で博士学位を取得しました。論文題目は「Study on relationships between frictional strength and long-term fault behavior including evolution of pore fluid pressure」です。修士課程については、2010年度から修士論文賞が設けられました。助教も含めて地球物理学分野教員全員による審査が行われ、優れた論文の提出者に修士論文賞が授与されます。2月18日に表彰式を行い、原田裕己君（太陽分科、町田教授）、原田昌君（気象分科、石岡准教授）、瀧口正治君（地殻分科、岩田教授）の3名を表彰しました。表彰の様子は専攻のホームページに掲載されていますので、ご覧下さい。